

第 31 回札幌市感染症対策本部会議 会議録

日 時：令和 3 年 12 月 23 日(木)13 時 30 分～14 時 00 分

場 所：本庁舎 12 階 1 号～3 号会議室

出席者：別紙座席表のとおり

【危機管理対策室長】

定刻となりましたので、ただ今から第 31 回札幌市感染症対策本部会議を開催いたします。危機管理対策室の荻田でございます。

新型コロナウイルス感染症の現下の感染状況などを踏まえまして、今後の対応等について、本部長であります秋元市長からご指示をいただくため、本日の会議を開催いたします。

それでは、北海道の本部会議が明日開催されるため、資料がありませんので、次第の「(1) 札幌市における感染状況等について」から始めさせていただきます。

まず、保健福祉局の栗崎局長、説明をよろしく願いいたします。

【各本部員（各局局長職）】

(保健福祉局 資料あり)

健康安全担当局長の栗崎でございます。私の方から「札幌市の感染状況について」ご説明を申し上げます。

まず 1 ページ目をご覧ください。新規感染者数につきましては、昨日 12 月 22 日時点の 1 週間合計は 60 人、そのうちリンクなしの人数は 16 人で、割合は 26.7%となっております。人口 10 万人当たりの新規感染者数は 3.06 人でありまして、1 週間前の 12 月 15 日が 0.71 人であることから、医療機関で発生した集団感染の影響もありまして、増加が見られております。

2 ページをご覧ください。札幌市民の入院患者数の状況についてご説明をいたします。病床の状況につきましては、この後、医務監からご報告をさせていただきますが、入院患者数は昨日 12 月 22 日時点では 25 人、また、重症患者数は 0 人となっております、現時点では医療への負荷は抑えられている状況であり

ます。自宅療養者数や宿泊療養者数も低い水準で推移をしているところであります。

3 ページをご覧ください。検査数についてでありますけれども、直近 1 週間の検査数は 6,624 件と、一定の検査数を維持しております。陽性率は昨日時点では 0.9%と、札幌市が目標としております 5%未満の低い水準で推移しております。

4 ページをご覧ください。年齢別の感染者についてであります。医療機関での集団感染の影響もあり、80 歳代以上に増加が見られるほか、20 歳代には医療従事者の方も多く含まれておりまして、こちらも増加が見られるところであります。

5 ページをご覧ください。新規感染者の感染経路についてであります。病院内を感染経路とする事例のほか、個人活動におきまして、飲食の場면을感染経路とする事例にも、増加が見られるところであります。

6 ページをご覧ください。集団感染事例、クラスターの発生件数についてであります。10 月以降は低い水準で推移しておりますけれども、今週に入り、新たな医療機関でのクラスターが発生をしております。ワクチンが広く普及しておりますけれども、その効果は 100%ではないため、一度、医療機関等で感染が起き、密度の濃い接触が繰り返されるといようなことがあると、クラスターにもなり得るといことをございます。

7 ページ以降は、ワクチン接種率とクラスターの発生につきまして、札幌市の状況を分析しましたので、ご説明をさせていただきます。

7 ページをご覧ください。水色の部分はワクチンの接種率で、徐々に増加をしてきております。灰色の折れ線グラフは、週の新規感染者数で、緑色の折れ線グラフは、そのうち 60 歳以上の人数であります。オレンジ色の棒グラフは、60 歳以上の占める割合が比較的高い、医療機関と福祉施設でのクラスターの発生件数であります。ワクチンが普及した第 5 波では、60 歳以上の新規感染者のピークは第 4 波の 3 分の 1 程度にとどまっております。また、同様に医療機関や福祉施設でのクラスターの発生件数も大幅に減少しているところであります。

8 ページをご覧ください。こちらの資料は医療機関におけるクラスターをさ

らに詳しく分析したものです。左のグラフは波ごとの感染者数の差を除くため、陽性者 1,000 人当たりの医療機関クラスターの発生件数を比較したものです。ワクチン接種がまだ始まっていない第 3 波からの推移を見ると、件数の減少に加え、クラスターの規模も小さくなっていることがわかります。

右側の表ですが、直近で発生しました比較的規模の大きい 2 件の医療機関クラスターにつきまして、規模の大きい従前の医療機関クラスターと比較したところ、クラスターが収束するまでの期間、それから陽性者数、死亡者数が 3 割から 9 割程度低下するなど、良い方向への質的な変化も見られているところがあります。

9 ページをご覧ください。こちらの資料は、直近 2 件の医療機関クラスターで陽性者のうち、高齢者が中心の入院患者について分析をしたものです。左のグラフは、ワクチンの接種別で重症度を比較したものであります。高齢者の場合は、ワクチンの重症化予防効果も、時間が経つと低下すると言われておりますが、未接種者と比較しますと、明らかに接種者につきましては、酸素投与等を必要とする中等症以上となる重症化の割合は非常に低くなっております。また、中等症以上となった場合でも、ワクチン接種をされている方で亡くなられた方はいませんでした。

右側の表ですが、札幌市はクラスター発生施設での感染の広がりを止めていくために、積極的に中和抗体療法を活用しておりますが、ワクチン接種の有無も含めて、重症化度を比較したところ、ワクチン・中和抗体療法の両方を実施した患者さんは、表の一番上でありますけれども、重症化の割合は 2 割弱であるのに対しまして、一番下になりますけれども、ワクチン・中和抗体療法、両方とも実施していなかった患者さんについては、重症化が 5 割と大きく開きが見られます。また、それぞれワクチン接種済み、中和抗体療法の組み合わせによって徐々にその効果が高まっているということがおわかりいただけるかと思えます。このようにワクチン接種によりまして、クラスターの発生リスクと重症化リスクともに明らかな減少が見られることがおわかりいただけると思えます。

まだ接種を迷われている方や、3 回目接種の対象となる方につきましては、接種がご自身の身を守ることにつながるということをしつかりと周知し、正し

い情報に基づいた判断をいただけるよう働き掛けをしてまいりたいと思います。

10 ページをご覧ください。こちらは札幌市でこれまでさまざまなクラスターの調査を行ってきました。そこで得られた事例に基づく知見の蓄積からの感染対策のポイントを動画もしくは資料にまとめまして、公開する取り組みを行っているものをご紹介します。下の表にあるように、職場や保育施設といった場所や人に着目をして対策をまとめているものであります。また、市のホームページで公開しておりますほか、講習などでこちらから出向いた際にはQRコードなども活用して、見る方がアクセスしやすいような工夫をしているところであります。今後もこういった普及・啓発活動を通じまして、感染対策について広く周知をしてまいりたいと考えております。

11 ページでありますけれども、市内中心部の人出について、札幌駅、大通駅、すすきの駅周辺の人出の推移をグラフにしたものであります。午前9時の状況は直近では3地点とも横ばいで推移をしております。

12 ページは午後8時の状況でありますけれども、忘年会シーズンということもあり、12月に入って人出の増加が見られているところであります。

最後 13 ページをご覧ください。年末年始は社会経済活動がより活発になり、感染リスクが高まりやすい時期にあります。市中の感染が落ち着いていることやワクチンの効果などにより、感染しても症状がほとんどないという方もおり、コロナに感染していないと考える方も見られます。ワクチン接種につきましては高い効果がありますけれども100%というわけではございません。ワクチンの効果を過信せずに、軽い症状であっても、体調に違和感がありましたら早めに受診、受検をしていただき、早期の治療に結びつけていただくことが大変重要と思います。

私からは以上でございます。

【危機管理対策室長】

続きまして、保健福祉局の館石医務監、説明をよろしくお願いいたします。

【各本部員（各局局長職）】

（保健福祉局 資料あり）

医務監の館石です。私からは病床の状況についてご報告いたします。資料は「入院受入病床の状況」をご覧ください。先ほどの説明と一部重複いたしますが、12月22日時点における新規感染者数は21人。入院患者数は、市外からの患者を合わせると25人となっています。直近の実質的な入院受入可能病床数は前回より1医療機関、7床増えて433床となっており、病床使用率は実質5.8%となります。市内の感染状況は、医療機関でのクラスターの発生により一時的に感染者数が増えているほか、年末年始に向けて人の動きが活発化し、飲食の機会が増えるなど感染リスクが高まる状況が懸念されることから、警戒を強めているところであります。

次の資料「抗体カクテル療法などの治療実績」についてご覧ください。市内の入院受入医療機関との連携のもと、早期に投与すれば肥満や糖尿病などのハイリスク患者の重症化を防ぐ効果が期待できる中和抗体薬などを積極的に活用しています。これまで7月末から12月22日までに37カ所の医療機関で合計488人の患者に投与しているところです。

先の対策本部会議（第29回感染症対策本部会議）において報告した調査結果では、発症から投与まで平均日数が4.5日となっており、発症後、検査から入院調整、治療開始までスムーズにつなげることができている状況です。また、投与後に症状が改善した割合は約90%と非常に高く、重症化予防に十分な効果が得られています。

次に資料はありませんが、年末年始の外来診療体制についてもご説明いたします。発熱等の症状がある場合には、例年通り救急当番体制や発熱外来医療機関に輪番での診療をお願いしており、救急安心センターさっぽろ「#7119」の方にお電話いただければ発熱外来などをご紹介する体制を取っています。市民の皆さまには、何か体調の変化を感じたときには、早め早めにご相談いただき、診療、検査を受けていただくようお願いしたいと思います。医師の診察の結果、必要とされたときには、いち早く中和抗体薬などによる治療につなげられるよう体制を整えています。年末年始の連休中、帰省や旅行の機会も増えることが予想されます。市民の皆さまには、体調に違和感があるときには、外出や

移動を控え、多くの医療機関が空いている平日の日中のうちに積極的に診察や検査を受けていただくよう重ねてお願いする次第です。

私からは以上です。

【危機管理対策室長】

続きまして、会議次第の「(2)札幌市における取組について」に入らせていただきます。

まずは栗崎局長、説明をよろしくお願いいたします。

【各本部員（各局局長職）】

（保健福祉局 資料あり）

私の方から資料「新型コロナウイルスワクチン追加接種（3回目接種）について」ご報告をいたします。

資料①をご覧ください。まず、追加接種の概要でありますけれども、対象年齢は現在のところ18歳以上であります。接種時期は、原則は2回目接種から8カ月経過後であります。前倒し接種が可能な場合が示されておりまして、2カ月前倒しは医療従事者や高齢施設等の入所者などとされておりまして、また、一般の高齢者につきましても、2月以降は1カ月前倒しできることとなっております。

4月までの追加接種の対象者の人数につきましては、下の表のとおりと見込んでおります。前倒しの対象者への接種券につきましては、医療従事者や一部の施設従事者へは年明け1月5日に送付を予定しております。また、施設入所者や入院患者の皆さまへは、前倒し送付は行いませんけれども、いずれも前倒し可能な条件を満たしていれば、接種券無しで接種可能とすることで、早期接種を進めていく予定であります。一般の高齢者の皆さま方には、1月下旬以降、2回目接種から7カ月経過前に届くように順次発送するよう、発送も前倒しをしております。また、接種会場につきましては、1回目、2回目接種と同様、個別医療機関中心で接種を進めていくこととしており、市のホームページで予約受付状況をわかりやすく発信をしていくこととしております。個別医療機関を補完するために集団接種会場も1月中旬頃に開設をする予定であります。

資料②をご覧ください。ただ今申し上げました集団接種会場についてご説明を申し上げます。表にありますように追加接種対象者が本格的に増加する2月以降に対応するため、10区の区民センター会場を設けるとともに、北区の札幌サンプラザ会場の開設も予定をしております。また、追加接種の一部前倒しに対応していくために、区民センター会場開設までの臨時的な会場といたしまして、コンベンションセンター会場を1月下旬に開設するとともに、医師会館会場を1月下旬以降は、追加接種会場とする方向で調整をしております。集団接種会場で使用する追加接種のワクチンは、国の供給状況を踏まえ決定することといたしますけれども、現在の供給見通しからは大半がモデルナとなる見込みであります。なお、1・2回目接種への対応につきましては、引き続きエルプラザ会場と個別医療機関で継続して接種することが可能であります。

資料③をご覧ください。ワクチンの供給の見通しについてご説明をいたします。国の供給予定は、現時点では令和4年3月までの分がファイザー、モデルナそれぞれの量が示されており、それ以降は示されておられません。札幌市への配分見通しは現時点では示されておられません。ファイザーとモデルナの配分量は国の配分割合と同程度になると想定をしております。

次に交互接種の実施についてご説明を申し上げます。下の参考のところに書いてあるとおり、国からは1回目、2回目の接種とは異なるワクチンを使用する、いわゆる交互接種につきまして、交互接種による抗体価の上昇は良好であること、副反応についても交互接種と同種接種で差がなかったという米国の研究などを紹介しております。

札幌市におきまして、前倒し接種をする前提で、令和4年3月までの追加接種回数は、中ほどにありますように約62万回であり、2回目接種までに使用したワクチンはファイザーが87%、モデルナが13%となっております。一方3月までに配分が想定されるワクチンはファイザーが54%、モデルナが46%であり、2回目までの接種の比率と比べますと20万回ほどファイザーが少なくなる見通しとなっております。従いまして、1回目、2回目でファイザーを接種した方が全員3月までにファイザーを接種することは困難な見通しでありますことから、早期に接種を受けたい方につきましては、交互接種の実施が必要となってまいります。

身近な医療機関でも対応できるよう、個別医療機関でもモデルナを接種できるよう調整を進めております。また、交差接種を希望しない場合は、必要な量のファイザーワクチンが供給されるまでお待ちいただくことが必要となります。いずれにしても、交差接種もワクチンの効果としては有効であるということにつきまして、丁寧に情報発信をしながら、より多くの方がスムーズに接種を進められるよう、取り組みを進めるつもりです。

以上でございます。

【危機管理対策室長】

続きまして、館石医務監、説明をよろしくお願いいたします。

【各本部員（各局局長職）】

（保健福祉局 資料あり）

資料は「第6波に備えた医療提供体制（方向性）」をご覧ください。今のところ、市内の感染状況は比較的落ち着いて推移していますが、新たな変異株オミクロン株が出現したことから、急速な感染再拡大に転じることが危惧されているところです。ここで新たな変異株による第6波への備えとして、医療提供体制整備の方向性についてご説明いたします。

国ではウイルスの感染力が2倍となった場合にも対応できるよう医療提供体制の強化、ワクチン接種の促進、治療薬の確保、これらを進め、感染拡大が生じたとしても国民の命と健康を損なう事態を回避するために取り組むとしております。

これらを踏まえて、札幌市では、先の第5波までに多くの入院受入医療機関にご協力をいただきながら、入院病床数の拡充や抗体カクテル療法の積極活用などの取り組みを進めてまいりました。これまでに整備された医療提供体制を基盤とし、医療従事者へのワクチンの追加接種とあわせて、陽性者の外来診療体制を確保し、発症早期から経口治療薬を活用できる体制の整備を進めてまいります。

現在、陽性者の外来診療体制の拡充を図るとともに、薬剤師会と連携して、経口治療薬の提供体制を構築すべく準備しているところであります。国は経口

治療薬が薬事承認された場合は、全国で年内に 20 万回分、さらに年度内に 40 万回分を確保する予定としており、札幌市としても国から経口薬が供給され次第、速やかに活用していく考えであります。

供給開始当初は、流通量が限られる見込みであることから経口薬を扱う薬局、「対応薬局」と言われますが、この「対応薬局」については、まず 8 カ所からスタートいたします。その後は供給量の増加にあわせて、札幌市内で 100 以上の「対応薬局」のリスト化を目指すこととし、すでに多くの薬局から内諾をいただいているところであります。

最後に、今後の感染拡大が予想されるオミクロン株については、国の対応方針に基づいて、積極的な検査を実施しており、札幌市内では、今日現在オミクロン株の陽性者は確認されておられません。今後、オミクロン株による感染拡大が加速した場合にも必要な医療を提供できるよう、札幌市医師会や各医療機関と協力して医療提供体制のさらなる整備を進めてまいります。

私からは以上です。

【危機管理対策室長】

続きまして、交通局の浦田管理者、説明をよろしく願いいたします。

【各本部員（各局局長職）】

（交通局 資料あり）

交通局でございます。交通局からは資料「大晦日における地下鉄の延長運転の中止について」ご報告をいたします。交通局では例年、大晦日の夜に最終電車を 2 時間 30 分ほど繰り下げ、全体で 70 本強の臨時運行を実施する延長運転を行っておりましたが、昨年度は感染状況が拡大傾向にありましたことから、この延長運転を中止いたしました。今年度においては、現在、感染状況は減少傾向にありますが、一方で昨日オミクロン株による初の市中感染が確認されるなど、引き続き感染症対策を徹底する必要があるといった状況にあることに加え、北海道神社庁も昨年と同様に、参拝の時間をずらそうということで初詣の「分散参拝」を呼び掛けているなどの状況に鑑みまして、今年も大晦日の延長運転を中止することをいたします。

すでに配布済みの広報さっぽろ 12月号には、延長運転の実施は未定と記載しておりますので、この会議終了後、早急に駅改札口や列車内にポスターを掲示するとともに交通局ホームページなども利用して、利用者へ延長の中止に関する周知を行う予定でございます。

説明、以上でございます。

【危機管理対策室長】

それでは、その他説明のある方いらっしゃいますでしょうか。

いらっしゃらないようですので、それでは本部長であります秋元市長からご指示をいただきたいと思えます。

市長よろしくお願いたします。

【本部長（秋元市長）】

昨年に引き続きまして、今年もコロナ感染症への対応ということで終始した1年だったと思えます。市民の皆さま、そして事業者の皆さまのご協力によりまして、市内の感染状況、現状では落ち着きを取り戻して穏やかな状況であると思っております。あらためて感謝申し上げたいと思えます。

また、札幌市医師会をはじめ、市内の医療機関の皆さま、関係者の皆さまには、札幌の医療を守るために、日夜、治療にあたっていただいておりますことを感謝申し上げたいと思えますし、この年末年始におきましてもそれぞれ特別体制をとって必要な治療にあたっていただくということで、ご協力をいただくことになっております。あらためて感謝申し上げたいと思えます。

市内の感染状況でありますけれども、医療機関での集団感染などがありまして、このところ新規感染者数が増加をしているところでございます。

今後、市中への広がり警戒しているところでありますが、現状、今のところは、市中への広がりということが顕著に確認されている状況ではないと認識をしております。

しかしながら、海外ではオミクロン株の急速な感染拡大が止まらない状況にある中、国内におきましても、オミクロン株の感染が相次いで確認をされておきまして、昨日には市中感染と思われるような感染拡大ということもあります。

そういう意味では、今後の感染拡大には、より一層、警戒が必要な状況だと考えているところであります。

このような状況を踏まえまして、市民の皆さまには、引き続き、3密の回避でありますとか、マスク着用、手洗い・手指消毒などの基本的な感染対策の徹底に、ご協力をお願い申し上げます。

とりわけ、年末年始におきましては、普段一緒にいない方との接触、会食の機会ということが増える状況になり、そういう意味では感染拡大のきっかけとなりやすい時期でございますので、体調に不安を感じるようなときには、旅行や帰省、さまざまなイベント、初詣、そして職場への出勤などの外出、移動ということについては、体調の悪いときには移動を控えていただくということ、そしてかかりつけ医でありますとか、「#7119」ご相談窓口の方に早期にご連絡、ご相談をいただきたいと思っております。

市内での医療機関での市中感染のときも、ワクチン接種による効果は100%ということではありません。そういう意味では、ワクチン接種をしていると、感染しても症状が軽くなり、ついこれはコロナ感染ではないだろうと思って行動される方がいらっしゃいます。ぜひ、ワクチン効果に過信をすることなく、体調に違和感がある場合には、早期にご相談をいただきたいと思っております。

仮に感染した場合でも、早期に治療薬での対応ということが、重症化を防ぐということにもつながりますので、ぜひ早期のご相談をお願いしたいと思っております。

また、年末年始につきましては、医療機関は大変混み合う時期でもございますので、感染対策はもちろんでございますけれども、お一人お一人が体調管理や事故に気をつけていただくということが、医療現場の負担の軽減ということにもつながりますので、あわせてご協力をお願い申し上げます。

次に本部長として本部員に指示をいたします。

市中への広がりには警戒が必要な状況ということ踏まえ、引き続き、市内の感染状況について、注意深くモニタリングを続けるとともに、第5波までに整備してきた医療提供体制を基盤としつつ、外来診療体制の強化や経口治療薬の処方体制のさらなる整備に取り組むこと。

とりわけ、オミクロン株については、新たな波の引き金となることが懸念さ

れる状況でありますので、引き続き、検査や入院受入体制の整備を進めるとともに職員の応援体制の拡充ということについて、市中に入り込んだ場合も想定した対応を準備しておくこと。

ワクチン接種につきましては、追加接種の一部前倒しという国の方針が示されましたので、接種券の送付の通達や集団接種会場の追加設置など、希望する対象者の方が速やかに接種できるよう、着実に準備を進めてください。

また、多くの方に接種をしていただけるよう、引き続き、ワクチン接種の効果や今後実施が見込まれる交接種の有効性など安心して接種していただくための情報発信に取り組むこと。

以上を指示いたします。

【危機管理対策室長】

各局区におかれましては、ただ今の本部長指示を踏まえ、今後の対応をよろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして本日の会議を終了いたします。

どうもありがとうございました。